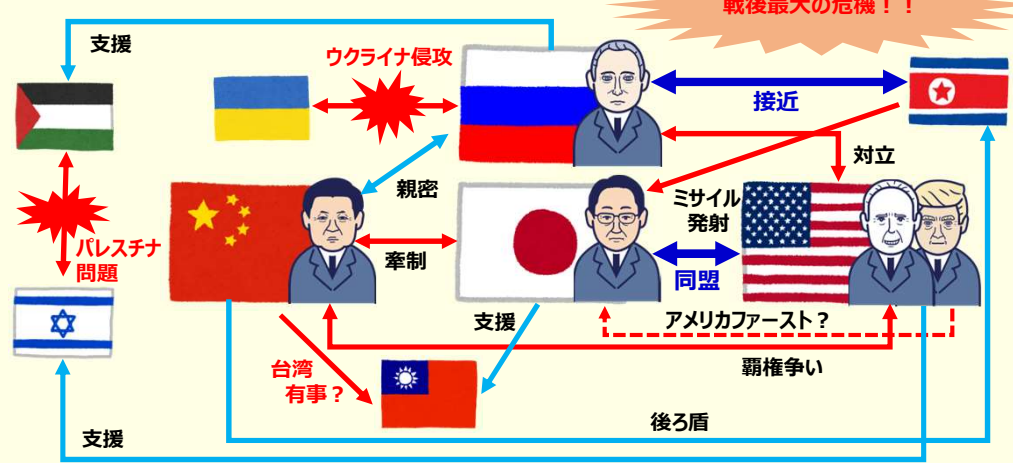


## 日本の安全保障を取り巻く現状

ロシアによるウクライナ侵攻は泥沼の様相を呈し、中国は軍事力強化を加速、北朝鮮は核・ミサイル開発を進める等、アメリカの相対的な力の低下の中で世界情勢は混迷を極める。力による一方的な現状変更を試みる国々に取り囲まれる我が国の安全保障は近年、**歴史上、最も厳しく複雑な環境**に直面している。中でも「眼前の危機」と言われる中国による台湾への武力侵攻を想定する「**台湾有事**」の懸念は年々高まりを見せている。

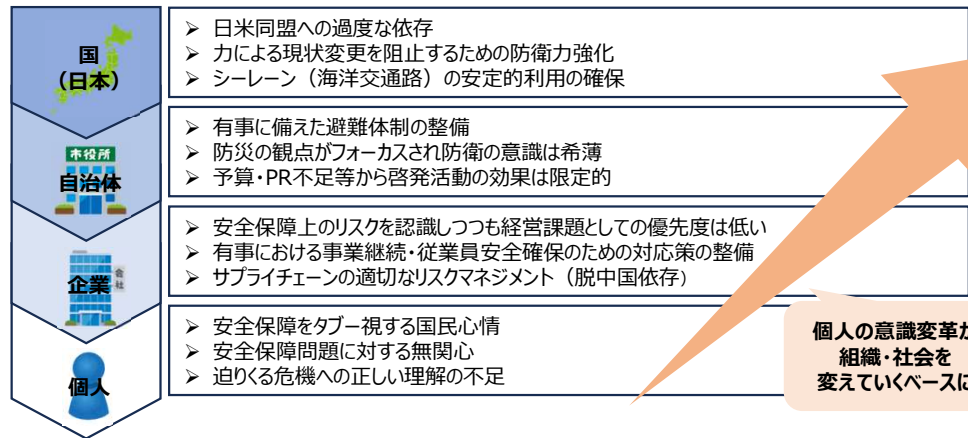
### <世界の安全保障環境>



- |  |   |
|--|---|
| <p><b>米 国</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的価値及び戦略的価値を共有する日本の同盟国。</li> <li>・中国等の台頭により相対的な力は低下。</li> <li>・トランプ再選時には米国第一主義への転換の懸念あり。</li> </ul> <p><b>北 朝 鮮</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「国防5年計画」に基づきミサイルの開発を推進。</li> <li>・過去例をみない頻度でミサイル発射実験を実施。</li> <li>・対アメリカを念頭にロシアに急接近。</li> </ul> | <p><b>中 国</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国防費は直近10年で2.2倍に増加（日本の約6倍）。</li> <li>・南沙諸島では大規模埋め立てにより既成事実化を推進。</li> <li>・台湾合併には武力行使も辞さずとの姿勢を示す。</li> </ul> <p><b>ロ シ ア</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウクライナ侵攻を開始し現在も継続。</li> <li>・ロシア・ウクライナの累計死者数は50万人以上。</li> <li>・北方領土を含む日ロ平和条約締結交渉を打ち切り。</li> </ul> |
|--|---|

## 安全保障問題における日本の課題

日本における安全保障上の課題は、国・企業・自治体・個人に跨り多様化・複雑化している



## 提言 I 『インド太平洋地域の連携強化に向けたベトナムとの関係深化』

国

課題/現状認識	提言
<p>日米同盟は必要不可欠だが…</p> <p>他国からの攻撃への抑止力 相互メリット 東アジアの活動範囲確保</p>	<p>日米同盟を軸にインド太平洋地域の強固なパートナーが必要</p> <p>包括的・戦略的 パートナーシップ</p> <p>経済：インフラ整備促進 防衛：装備品の供給 人材：ハイレベル人材の交流</p> <p>共通の価値観</p>
<p>【中 国】急速な軍事拡大、強引な海洋進出 【ロシ ア】ウクライナ侵攻 【北朝鮮】核・ミサイル開発、弾道ミサイル発射 ⇒アメリカの相対的な影響力低下</p> <p>加えて… トランプ再選によるアメリカの「変心」の懸念</p>	<p><b>効果狙い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インド太平洋の同志国との関係強化</li> <li>・アメリカに過度に依存しない安全保障体制確立</li> <li>・中国・ロシアの脅威に対する抑止力向上</li> </ul>

## 提言 II 『自衛隊新卒の採用促進』

企業

課題/現状認識	提言
<p>代表的「抑止力」である自衛隊の慢性的不足</p> <p>不足2万人…</p> <p>定数 24万人</p> <p>幹部 曹 士</p> <p>一線を担う隊員 ・任期制あり ・減少が顕著</p> <p><b>&lt;不足の背景&gt;</b> 少子高齢化、危険というイメージ… 任期制制度と再就職問題（希望職種とのアンマッチ） ⇒退職後の魅力的な就職先が 自衛隊の増加（維持）に繋がる！</p>	<p>企業が知らない自衛隊員の魅力を伝える</p> <p>＜人物面＞ 責任感・順応力 チャレンジ精神 社会貢献意欲</p> <p>＜スキル面＞ 機械整備 会計実務 看護力…</p> <p>体力・規律性 だけじゃない！</p> <p>人事担当へ 斡旋</p> <p>インターン 相互研修 開催</p> <p>採用数を 防衛事業 加点対象に</p>
<p><b>効果狙い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自衛隊の応募者数増加</li> <li>・国・企業・個人が抑止力につながる仕組みを構築</li> <li>⇒大切な人を護るための攻撃されない国づくり</li> </ul>	

## 提言 III 『安全保障に触れる機会の共創』

自治体

課題/現状認識	提言
<p>防災＝防衛、大切な人命を護ることに繋がる</p> <p>UP</p> <p>「防災」訓練は増加 「防衛」への備えは？</p> <p>国民保護法に基づき自治体は以下対応を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急一時避難施設の指定</li> <li>・有事に備えた啓発活動</li> <li>・初の弾道ミサイル避難訓練（@石垣市）</li> </ul> <p>⇒依然、体制整備不十分、効果は限定的 また、個人としても… 安全保障への関心が低い、知る機会が限定的</p>	<p>防災で活用されている親しみやすいコミュニケーションを防衛に転用</p> <p>安全保障グループ22期</p> <p>石垣市 ①『防衛マニュアルブック』の作成 ②行政とコラボした「防衛イベント」の実施 ③企業インフラを活用した啓発活動</p> <p>大阪府</p> <p>企業 会員企業として できることがある！</p> <p>NPO法人 プラスアーツ</p> <p>22期生が見つけたパートナー！ 防災の楽しさを世界に発信するNPO法人 防災プログラム構築のスペシャリスト集団</p> <p><b>効果狙い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全保障に触れる機会を創出する</li> <li>・安全保障を身近なもの、「自分ごと」にする</li> <li>⇒安全保障が当たり前で語られる世界を作る</li> </ul>

伝えたい  
思い

一人ひとりの行動が国・自治体・企業の取り組みにも繋がっていく。大切な人を護るために安全保障を「知ろう」「話そう」「広めよう」。